

ご質問と回答

質問5 (平成17年6月受付)

(旧小国町出身)

旧小国町と東京都武蔵野市は友好都市であり震災では多大な援助を受けました。新長岡市としては今後どのような関係を持たれるのでしょうか？県外海外自治体と友好・姉妹都市・災害援助協定を締結している市町村で来年、新たに長岡市へ合併する自治体もあります。その点も含め新市の方針を確認願います。私は旧自治体の意思を尊重した上で新長岡市として友好・姉妹都市・災害援助協定締結が望ましいと思います。新柏崎市は旧西山町と友好都市であった中国江蘇省ワンヤン市楚州区と新市として友好都市を締結しました。

回答

合併前の市町村が結んだ「姉妹都市・友好都市」については、国内外に関わらず新市で引き継ぐことが決まっています。従いまして、小国町が長岡市と合併したことにより、新長岡市と東京都武蔵野市は友好都市として関係を継続しています。

また、来年新たに長岡市と合併する4市町村の場合も同様に、姉妹都市・友好都市を新長岡市が引き継ぐこととなります。

質問4 (平成17年6月受付)

(与板町在住)

合併後に設置される地域委員会について質問します。「長岡市長記者会見の概要 平成17年4月4日」<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/dpage/kouhou/kaiken/050404/050404kaiken.htm>によると、地域委員会の委員は「地域から推薦を受けて」選任したとあります。これに関して、地域からの推薦の方法はどのようなものなのでしょうか？具体的には地域の「誰」がどのようにして推薦するのか教えてください。「どのように」とは地域委員会の定数ちょうど的人数を推薦するのか、それとも定数以上の人々を推薦し、その中から市長が選ぶようなことがあるのか、また、公募といった方法が取られることがあるのか、各地域で推薦方法が異なることがあるのか、といったことです。次に、長岡市地域委員会条例第4条2の(3)には「学識経験を有する者」とありますが、この「学識経験を有する者」とは具体的にどのような人を指すのでしょうか？その定義を教えてください。また、仮に地域が学識経験者として推薦した人が、その定義に当てはまらないと思われる場合、市側が選任を拒否することもあるのですか？それとも、地域が学次w)・ツ経験者として推薦した以上、定義がどうあれ、地域側の意見を尊重してその人を選任するのでしょうか？最後に、先の記者会見の資料に各地域委員の名簿がありますが、この名簿の区分において「学識経験者」とされる人々は具体的にどのような理由から「学識経験者」とであると判断されるのか、各委員ごとにその理由を教えてください。

回答

今年4月1日に合併した5町村にかかる地域委員会についてご回答いたします。

1. 地域からの推薦の方法について
旧町村長からの内申です。
2. 地域委員の推薦人数について
14人以内です。
3. 公募について
「1.」のとおりです。
4. 各地域での推薦方法について
同じです。
5. 学識経験者について
 - ①学識経験者の定義
特別な定義はありません。
 - ②市長側の拒否の有無
任命権者は市長です。
 - ③学識経験者各委員の判断理由
今回委嘱した学識経験者は、土地改良区役員、公民館長、商工会役員、農協役員、監査委員、農業経営者、会社役員、NPO法人役員、合併協議会委員、消防団長、農業委員、公民館運営審議委員、復興計画策定委員、財団法人役員、社会教育委員などです。

質問3 (平成17年6月受付)

(栃尾市在住)

長岡市になった場合の栃尾市の住所はどうなりますか？まだ発表はありませんか？

回答

栃尾市の住所の取扱いにつきましては、2月9日の第2回長岡市・栃尾市合併協議会において、「町名・字名の取扱い」として下記のとおり決定しましたので、2月22日発行の長岡市・栃尾市合併協議会だよりで全世帯にお知らせをしたところです。

その内容は、栃尾市においては、「大字」の表記を削除する。なお、長岡市の町名と重複する町名については、「栃尾」をつけるものとするというもので、これを例で示すと、栃尾市大字赤谷は、長岡市赤谷となります。なお、長岡市の町名と重複する下記の町名は、住所に「栃尾」がつきます。

栃尾市山田町	→ 長岡市栃尾山田町
栃尾市大字山田	→ 長岡市栃尾山田
栃尾市新町	→ 長岡市栃尾新町
栃尾市大町	→ 長岡市栃尾大町
栃尾市表町	→ 長岡市栃尾表町
栃尾市大野町1～4丁目	→ 長岡市栃尾大野町1～4丁目
栃尾市大字大野	→ 長岡市栃尾大野

栃尾市旭町	→ 長岡市栃尾旭町
栃尾市本町	→ 長岡市栃尾本町
栃尾市原町 1～5 丁目	→ 長岡市栃尾原町 1～5 丁目
栃尾市大字原	→ 長岡市栃尾原
栃尾市大字岩野外新田	→ 長岡市栃尾岩野外新田
栃尾市大字島田	→ 長岡市栃尾島田
栃尾市大字宮沢	→ 長岡市栃尾宮沢
栃尾市大字泉	→ 長岡市栃尾泉

なお、栃尾市では17年3月3日発行の「広報とちお3月号」で上記の内容をお知らせしているとのことですが、今後も引き続き住民周知を行っていききたいとのこと。詳細は栃尾市へお問い合わせください。

質問2（平成17年5月受付）

（住所不明）

長岡市と4月に合併した住民の声を不安や要望も含め率直に教えて下さい。長島復興管理監が旧小国町を訪れる前に端であるがゆえの不安が新潟日報に掲載されていました。不安は解消されるような取り組みはされてるのでしょうか？特に小国法末地区は栃尾の半蔵金地区と重なります。合併を見送った小千谷市の方も新長岡市の周辺部への目配りを注視してると思われます。

回答

長岡地域において発生した今回の大災害（水害及び震災）は、多数の尊い人命を奪い、住宅、道路、農地、商工業など地域の暮らしや産業に著しい被害をもたらしました。特に、全村避難の旧山古志村をはじめ、旧小国町や栃尾市などの中山間地域は、壊滅的な被害を受けました。これらの地域では、被災前から地域産業の振興、高齢社会への対応、過疎化など多様な課題を抱えており、今回の自然災害と市町村合併により、地域の将来に大きな不安をお持ちになる方がいらっしゃるのも無理のないことと思います。

市町村合併に対する不安の声としては、合併すると地域の伝統や文化が失われるのではないかと、中心部だけが良くなって、周辺部が取り残されてしまうのではないかと、住民の声が行政に届きにくくなるのではないかなどといった点がよくあげられますが、このような懸念を解消するため、新長岡市では「長岡方式の地域自治」を構築しています。具体的には、旧市町村単位に支所と地域委員会を設置するとともに、「ふるさと創生基金」や「地域コミュニティ事業補助金」を設置し、住民の不安の声に対応しています。

新長岡市は、「市民力と地域力を生かしたまちづくり」を市政運営の基本としています。市民1人ひとりの知恵と力を結集してまちづくりを進める「市民力」。地域の文化や伝統を大切に、異なる個性の地域が互いに刺激しあって活力を高める「地域力」。この2つの力があってこそ新長岡市が発展していくものと考えております。新長岡市は今後とも、地域の声を大切に、各地域の皆様がより暮らしやすく、安心して日々の生活を営めるような市政運営を目指します。

新市の災害復興については、「復興推進室」を設置するとともに、特別職の2名の「復興管理監」を任命し、「均衡ある復興」を基本に各地域委員会の意見を聞きながら全力で被災地域の復興に当たっていますので、地理的に端であるから復興が遅れるということはありません。

また、現在は、市長・復興管理監ともに、とにかく災害現場に行き、状況を把握し、地域の声を聞くことに努めており、既に各支所と連携をとりながら、小国地域を含め新長岡市の大きな被災現場のすべてを見て回り、すべての長期避難勧告地域に出向いて地域住民との懇談会を行っています。

栃尾市については、平成18年1月1日の編入合併を予定していますが、現在は合併前であるため、栃尾市独自で復興計画を策定しており、栃尾市長を先頭に全力で災害復旧に取り組んでいます。合併後は新長岡市の復興計画と統合し、新市の全力を挙げて被災地域の復興に取り組んでいきますので、ご安心ください。

質問1（平成17年4月受付）

（埼玉在住）

合併後の中核市実現を期待した市民も多いと思いますが要件を満たさないようで残念です。人口以外に何が足りないか？人口30万人未満でも実現できる方法があるか教えてほしいと思います。

回答

中核市になるには一般的に、人口30万人以上で面積が100km²以上という要件を備えることが必要です。

平成18年1月1日に長岡市と和島村、寺泊町、栃尾市、与板町が合併すると、人口約28万7千人、面積約841km²の新市が誕生しますが、ご指摘のとおり人口要件により中核市の要件は満たしません。また、現行の制度において、人口30万人未満で中核市に認められる特例はありません。

中核市になることにより、保健、福祉、環境など、市民生活に密着した分野の事務の権限が県から市へ移譲され、これまで以上にきめ細かな対応が可能になります。中核市移行はひとつの目標であり、行財政基盤を強化し、地域の個性を生かした中核市を形成することにより、新市の競争力を更に高めることができると考えています。これからも、短期ではなく長期的な視点で、「40万都市」に向けた合併を着実に推進していきます。